

中国地域の経済動向

(2025年6月の指標を中心に)

～持ち直しの動きに足踏み感がみられる～

2025年8月22日

(本発表資料のお問合せ先)
総務企画部企画調査課長 中野 伸二
電話：082-224-5633
メール：bzl-chugoku-chosa@meti.go.jp

～判断の推移～

2025年7月（5月指標中心）		2025年8月（6月指標中心）
基調判断	持ち直しの動きに足踏み感がみられる	⇒
1. 生産動向	横ばい傾向	⇒
2. 個人消費	緩やかな持ち直しの動きがみられる	⇒
3. 雇用	有効求人倍率は前月に比べ低下、新規求人数は前年同月比で減少	⇒
4. 景況感	現状、先行きともに前月に比べ上昇	⇒
5. 貿易	輸出、輸入ともに前年同月比で減少	⇒
6. 建設動向	公共工事、住宅建設ともに前年同月比で減少	公共工事は前年同月比で増加、住宅建設は前年同月比で減少
7. 企業倒産	件数、負債総額とも前年同月比で減少	件数は前年同月比で減少、負債総額は前年同月比で増加
8. 設備投資	2025年度計画は前年度を上回る見込み	⇒

1. 生産動向 ～横ばい傾向～

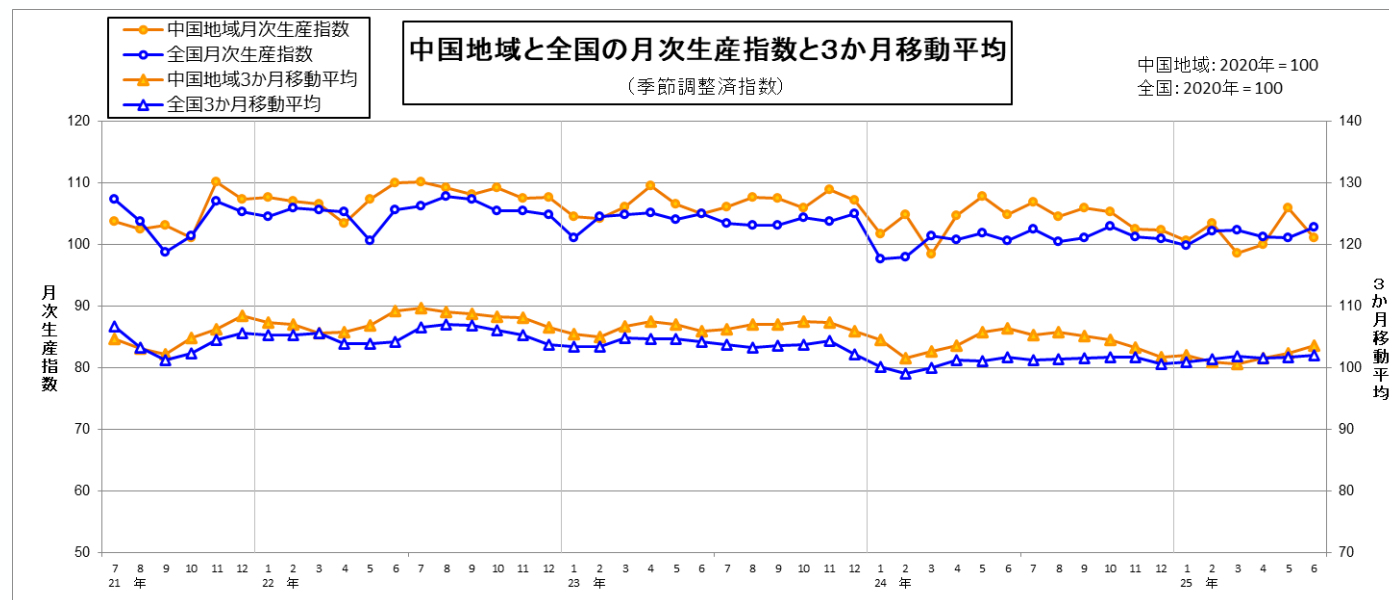
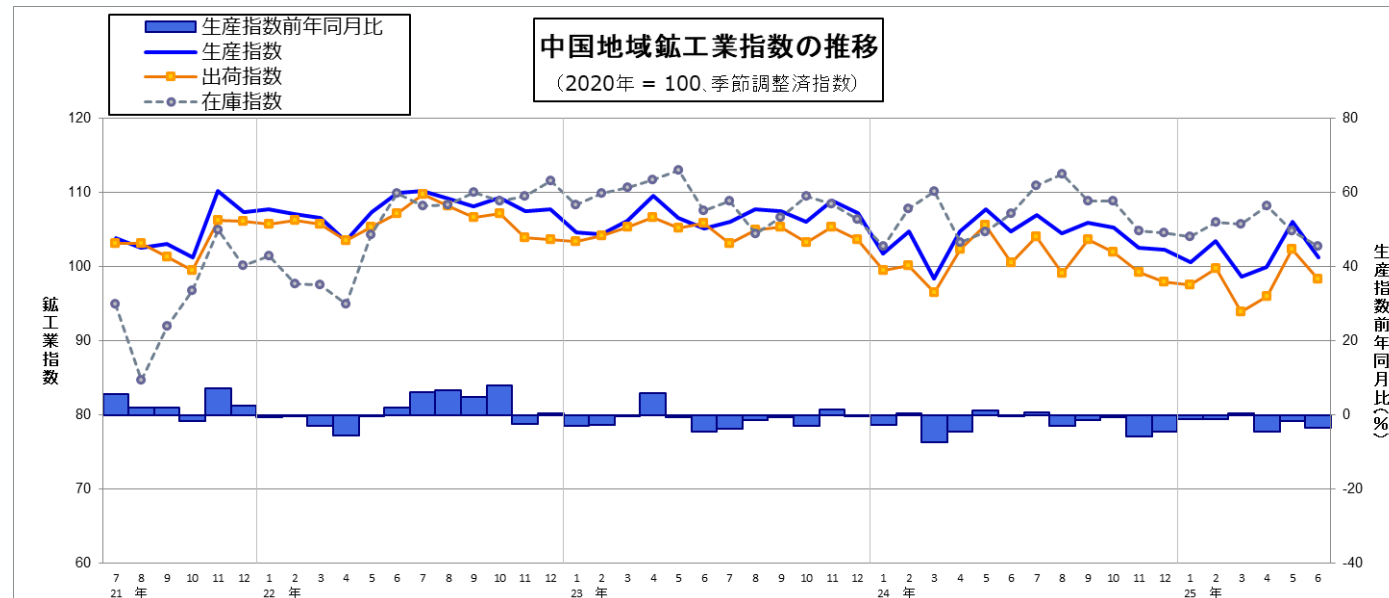
2025年6月の鉱工業生産指数（速報）は101.2、前月比 ▲4.5%の低下となった（2020年=100、季節調整済）。出荷は低下、在庫は低下、在庫率は上昇となった。

生産は、前月比 ▲4.5%の低下となった。業種別では、船舶(鋼造船・船用機関)、石油・石炭製品工業、鉄鋼業などが上昇し、自動車（乗用車・トラック・主要部品）、汎用・業務用機械工業、電子部品・デバイス工業などが低下した。

【主要業種の動向】

主要業種である自動車（乗用車・トラック・主要部品）は部品の需要減少などにより低下したものの、ここ3か月の動向をみると横ばい状態です。
汎用・業務用・生産用機械工業は、需要は堅調であるものの一進一退の状態です。

詳細データはこちらから



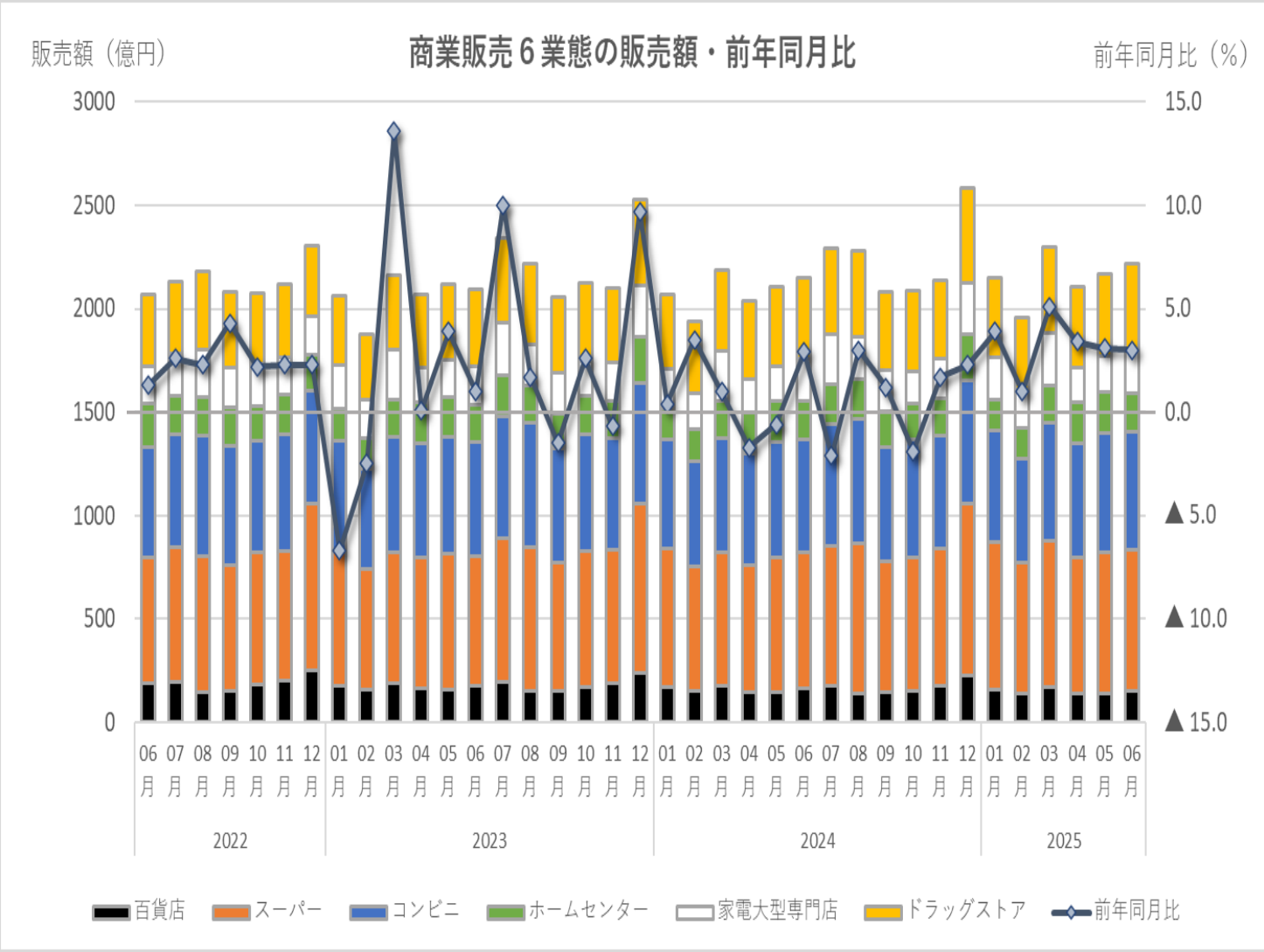
2. 個人消費 ～緩やかな持ち直しの動きがみられる～

2025年6月の商業6業態の販売額は2,216億円で、前年同月比3.0%と8か月連続で前年を上回った。

(百万円)		(全店舗、%)			
	6業態における構成比	販売額	前年同月比		前月の前年同月比
6業態		221,608	3.0	8か月連続プラス	3.1
百貨店	6.9%	15,365	▲ 7.9	22か月連続マイナス	▲ 5.3
スーパー	30.7%	68,051	4.2	8か月連続プラス	5.7
コンビニエンスストア	25.6%	56,822	3.6	4か月連続プラス	2.3
ホームセンター	8.5%	18,750	3.0	2か月ぶりにプラス	▲ 0.2
家電大型専門店	9.7%	21,467	2.1	8か月連続プラス	6.8
ドラッグストア	18.6%	41,153	5.2	42か月連続プラス	3.4

	店舗数	前年同月比
百貨店	12	0.0 %
スーパー	337	2.1 %
コンビニエンスストア	3,044	0.0 %
ホームセンター	404	0.2 %
家電大型専門店	176	0.0 %
ドラッグストア	1,064	3.4 %

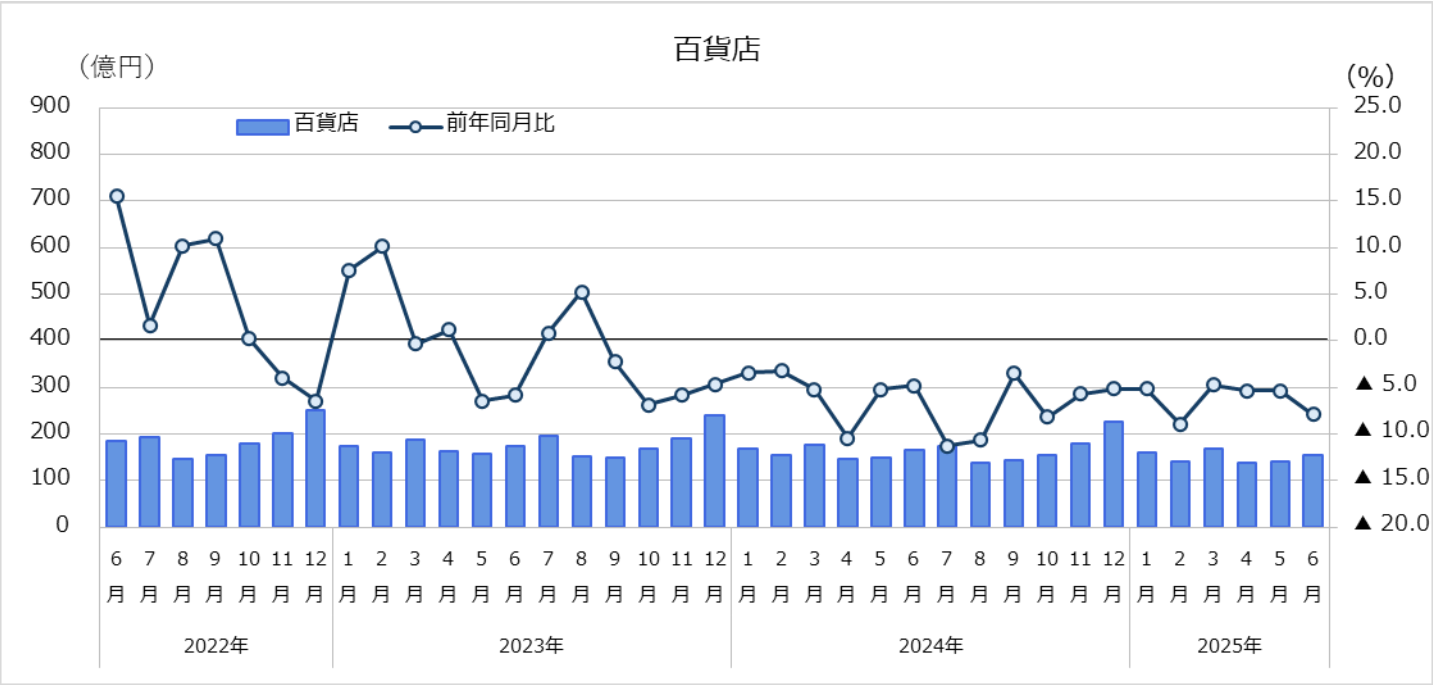
その他のデータはこちらから



2. 個人消費

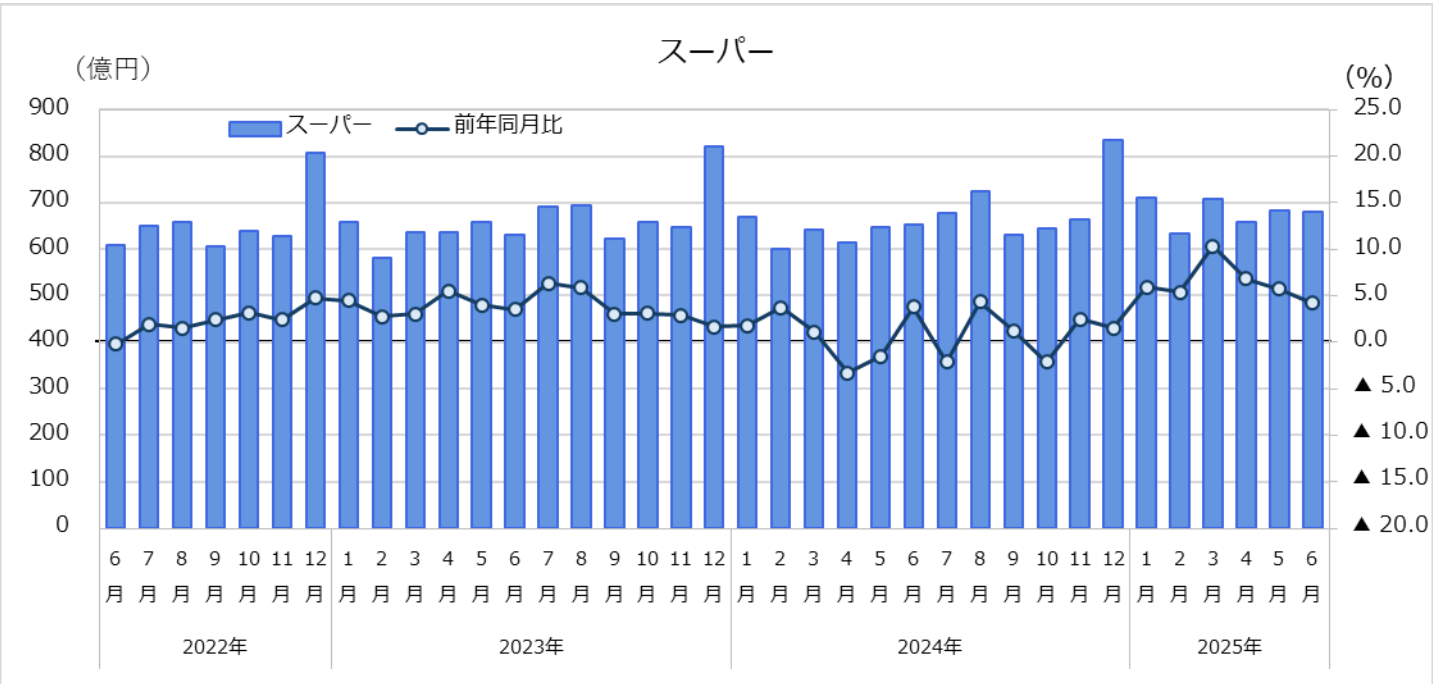
(1)百貨店の状況

後半からの気温上昇により来店客数が減少したほか、昨年好調だった美術品、化粧品が振るわなかった。また、飲食料品は価格上昇により鮮魚が低調だった。そのほか、夏物衣料やセール品、ハンドバッグが苦戦した。



(2)スーパーの状況

引き続き価格上昇により米の売上が増加したほか、後半からの気温上昇により冷やし麺、すいか、飲料、アイスが好調だった。また、殺虫剤にもよい動きがみられた。一方、野菜は価格が落ち着いたものの買上点数は増えず売上が減少した。



詳細データはこちらから

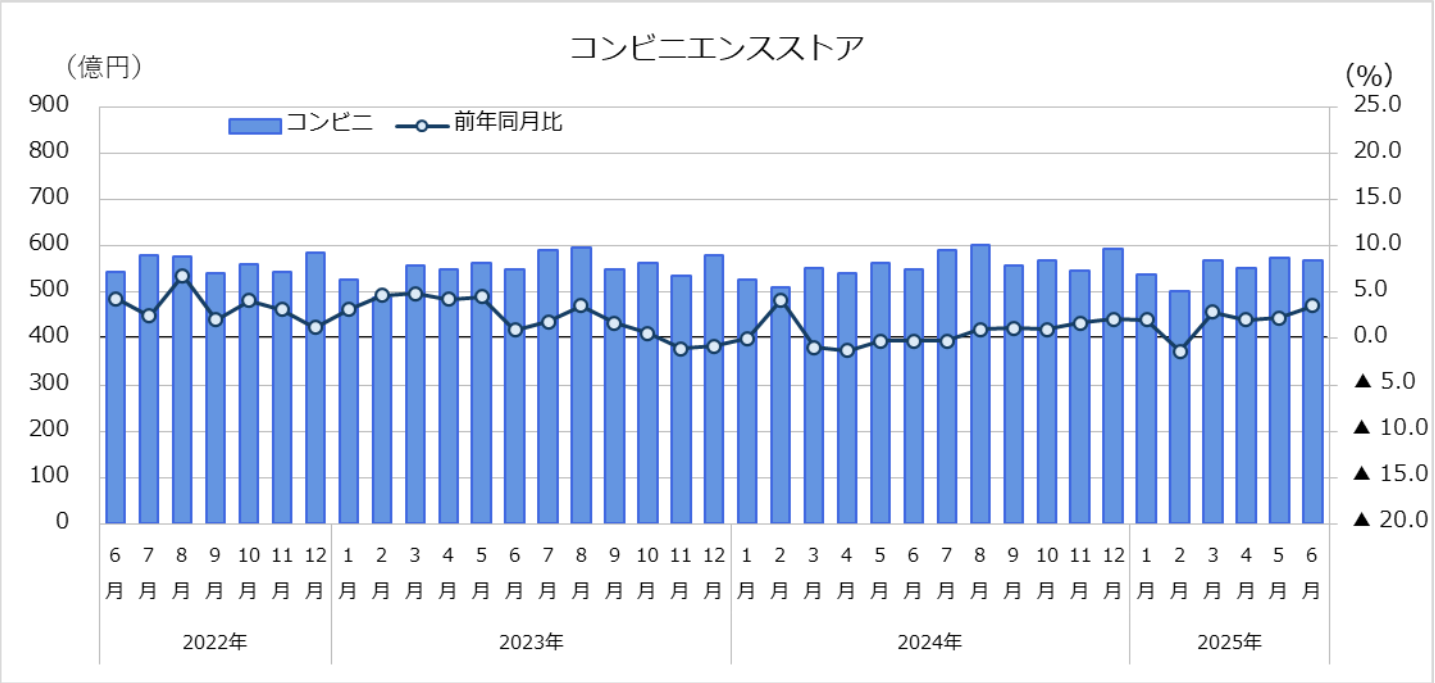


(資料) 「商業動態統計調査」(経済産業省)
「中国地域百貨店・スーパー販売動向」(中国経済産業局)

2. 個人消費

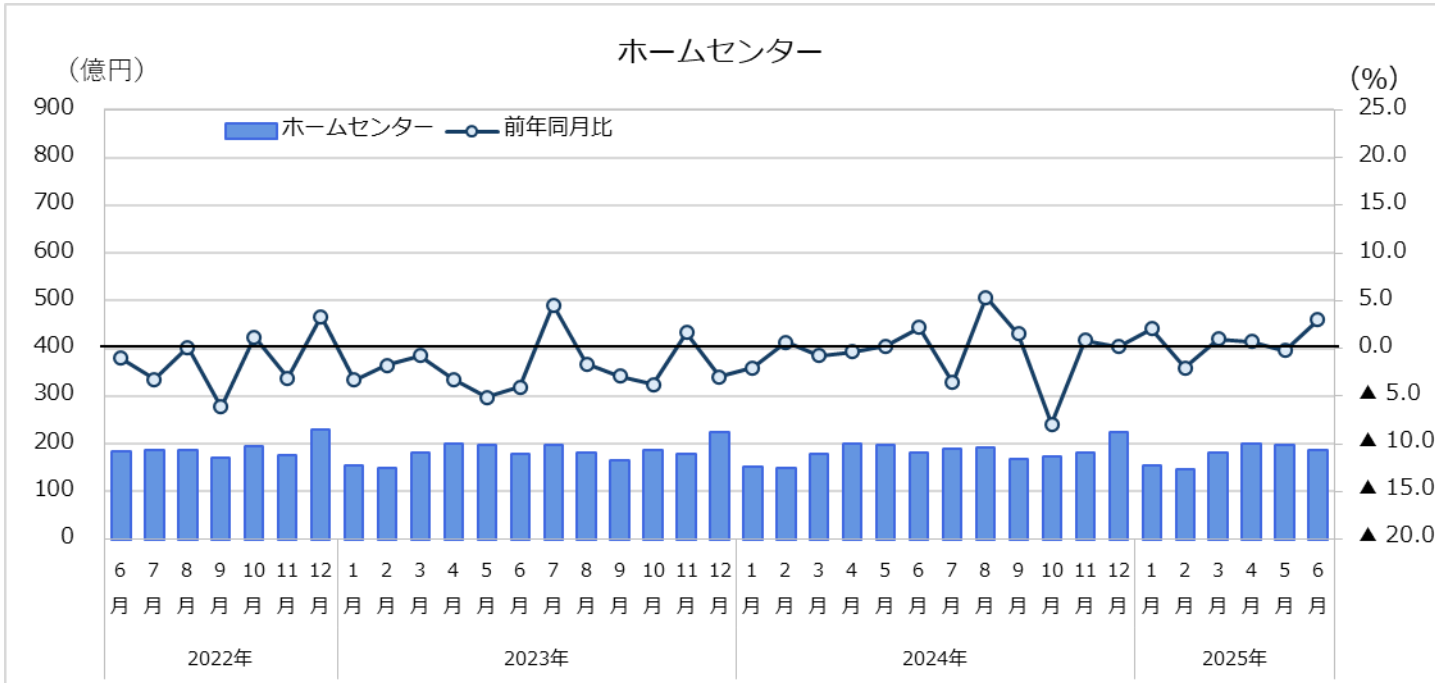
(3)コンビニエンスストアの状況

前年より雨が少なかったことで来店客数が増加したほか、価格上昇や販売促進効果でおにぎりや揚げ物が好調だった。また、後半からの気温上昇により飲料、アイスが好調だった。



(4)ホームセンターの状況

後半からの気温上昇により殺虫剤、扇風機やエアコンが好調だったほか、紙製品や衣料用洗剤の売上が増加した。また、熱中症対策の義務化によりファン付きウエアなどの夏用作業着が好調だった。

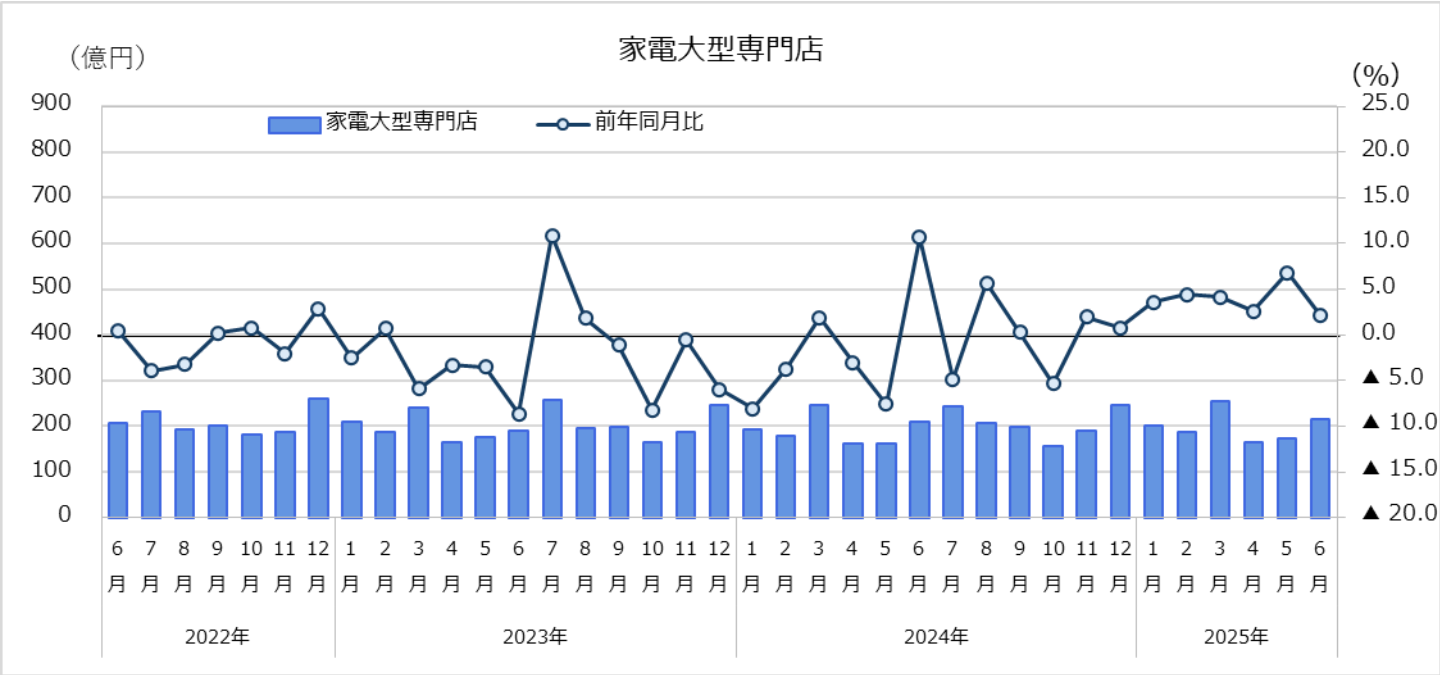


(資料) 「商業動態統計調査」 (経済産業省)

2. 個人消費

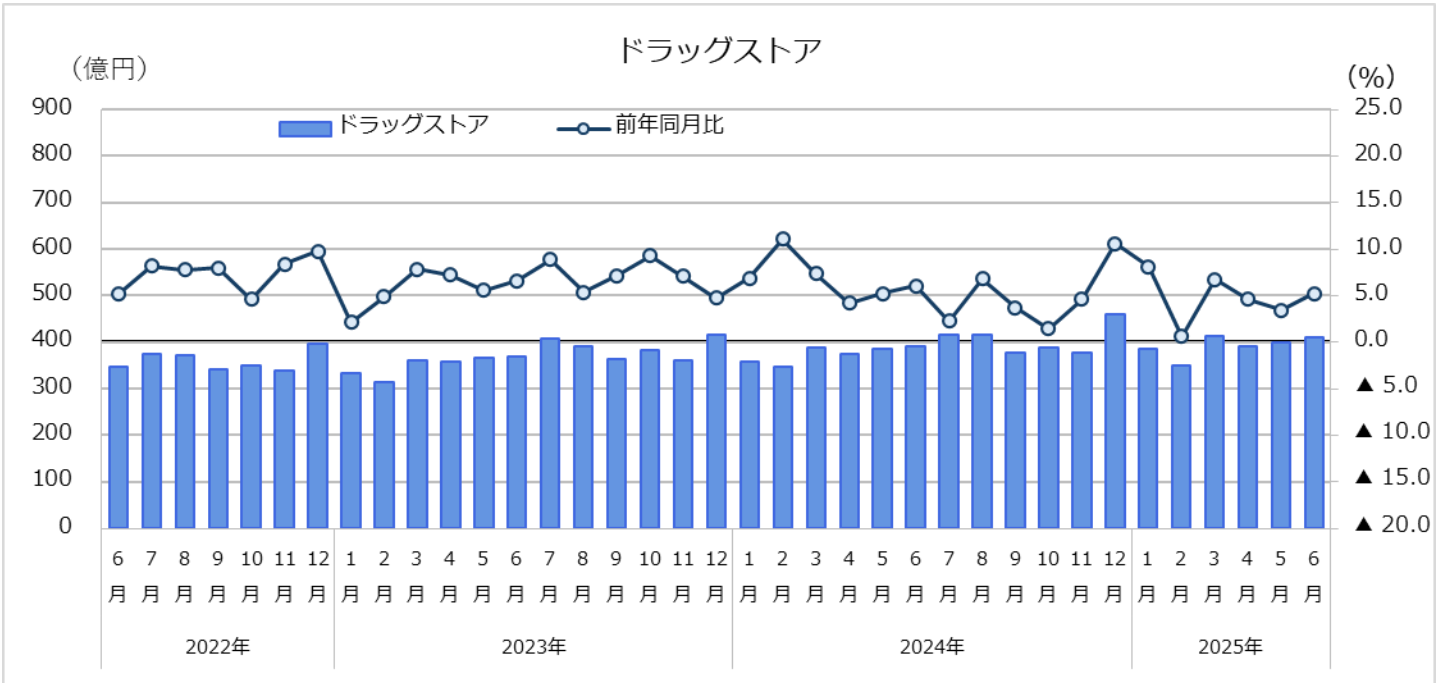
(5)家電大型専門店の状況

販売促進効果によりエアコン、携帯電話が好調だったほか、買い換え需要でパソコンにより動きがみられた。また、新製品のゲーム機が好調だった。一方、前年の反動でテレビが低調だった。



(6)ドラッグストアの状況

引き続き価格上昇により米の売上が増加したほか、利用者数の増加により調剤医薬品が好調だった。また、後半からの気温上昇により飲料、アイス、UVケア商品、制汗剤、殺虫剤により動きがみられた。



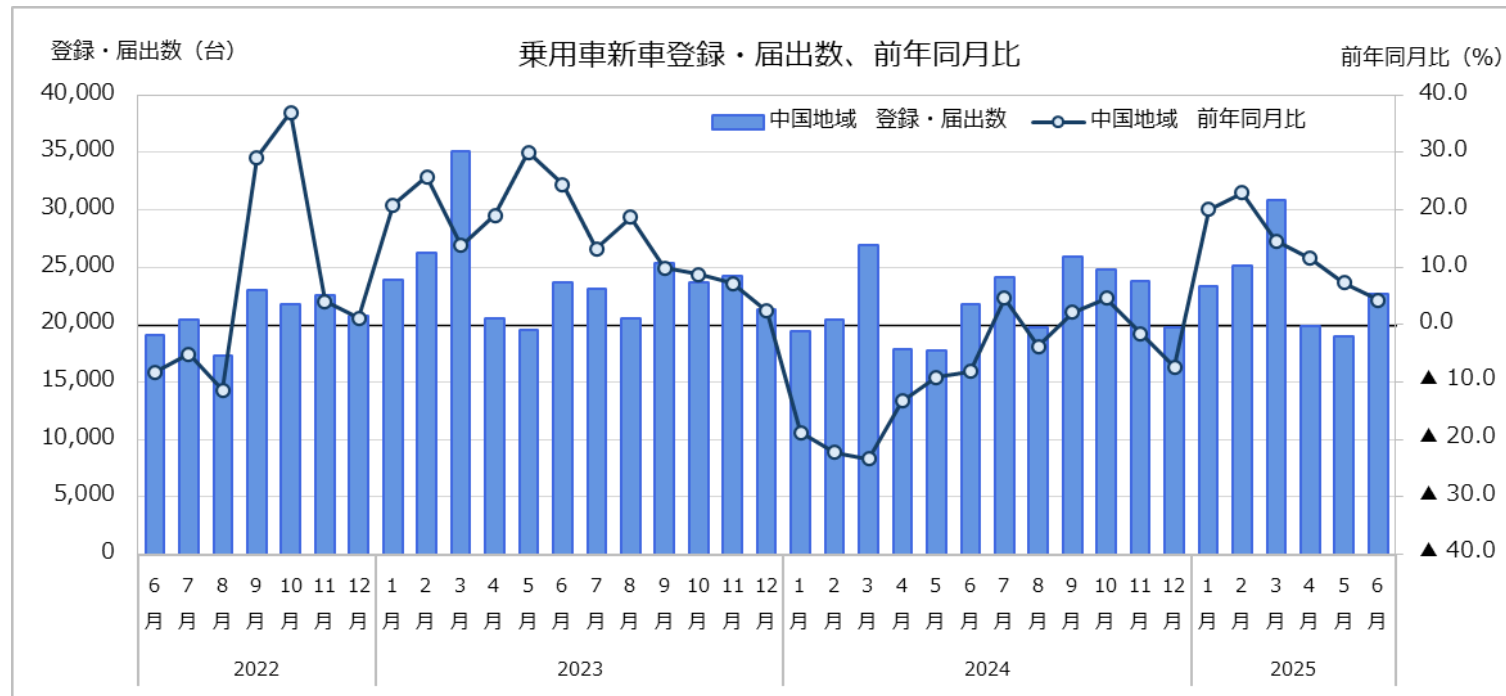
(資料) 「商業動態統計調査」 (経済産業省)

2. 個人消費

●乗用車新車登録・届出数

2025年6月の乗用車新車登録・届出数は、普通乗用車が前年同月を下回ったものの、小型乗用車、軽乗用車が前年同月を上回り、合計では前年同月比4.3%と6か月連続で前年を上回った。

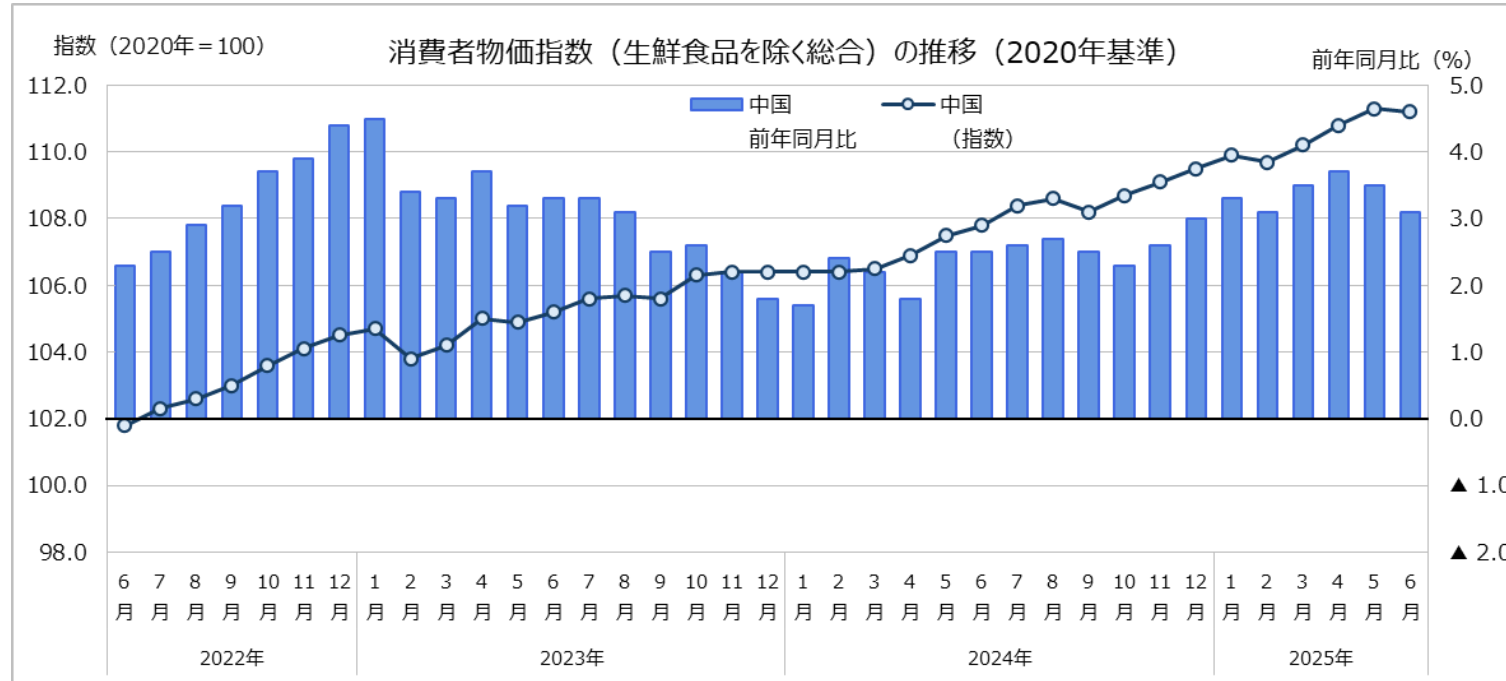
(資料) 中国運輸局資料をもとに中国経済産業局作成



●消費者物価指数(中国地域)

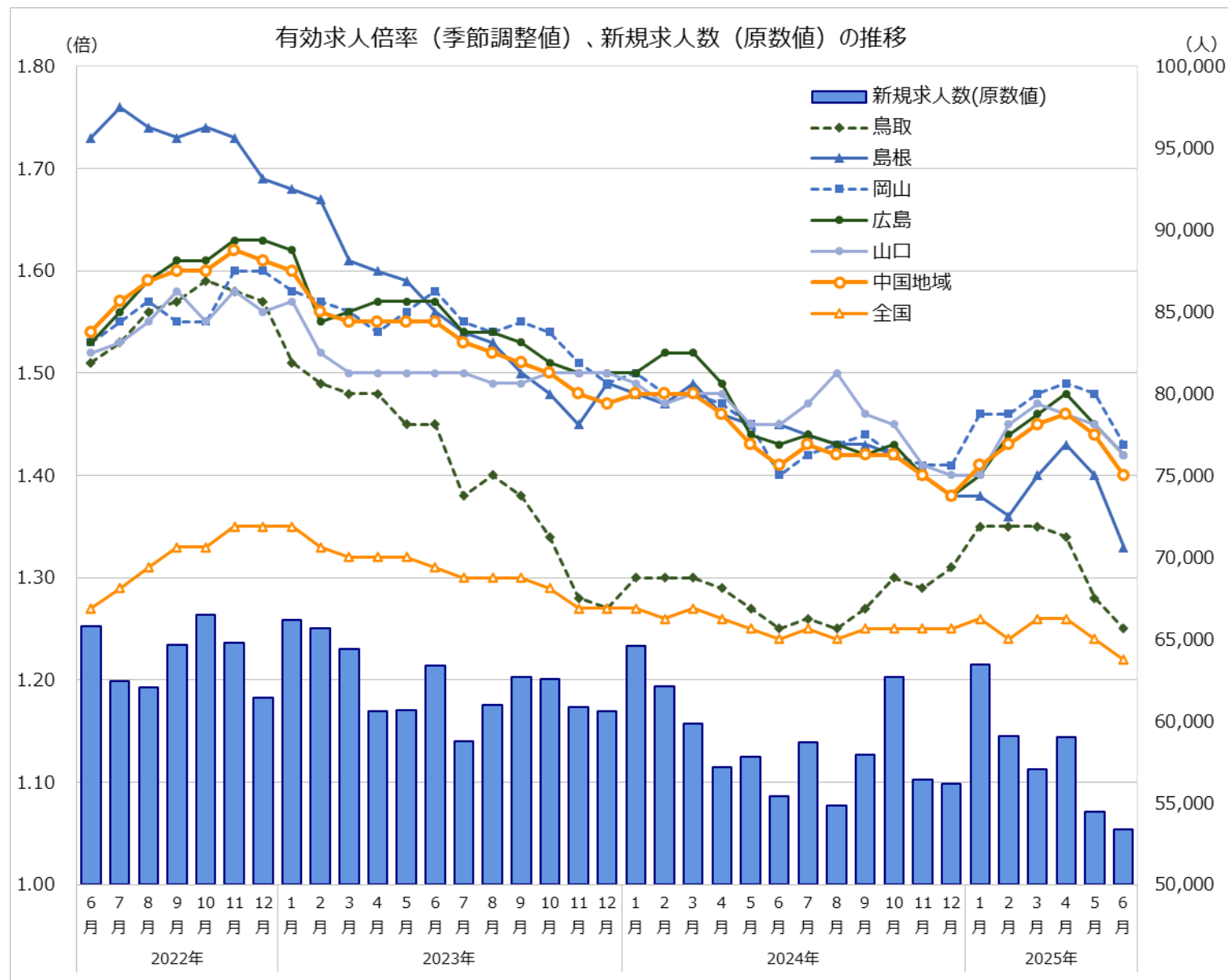
2025年6月の消費者物価指数(生鮮食品を除く総合指数)は前年同月比3.1%の上昇となった。

(資料) 「消費者物価指数」(総務省)



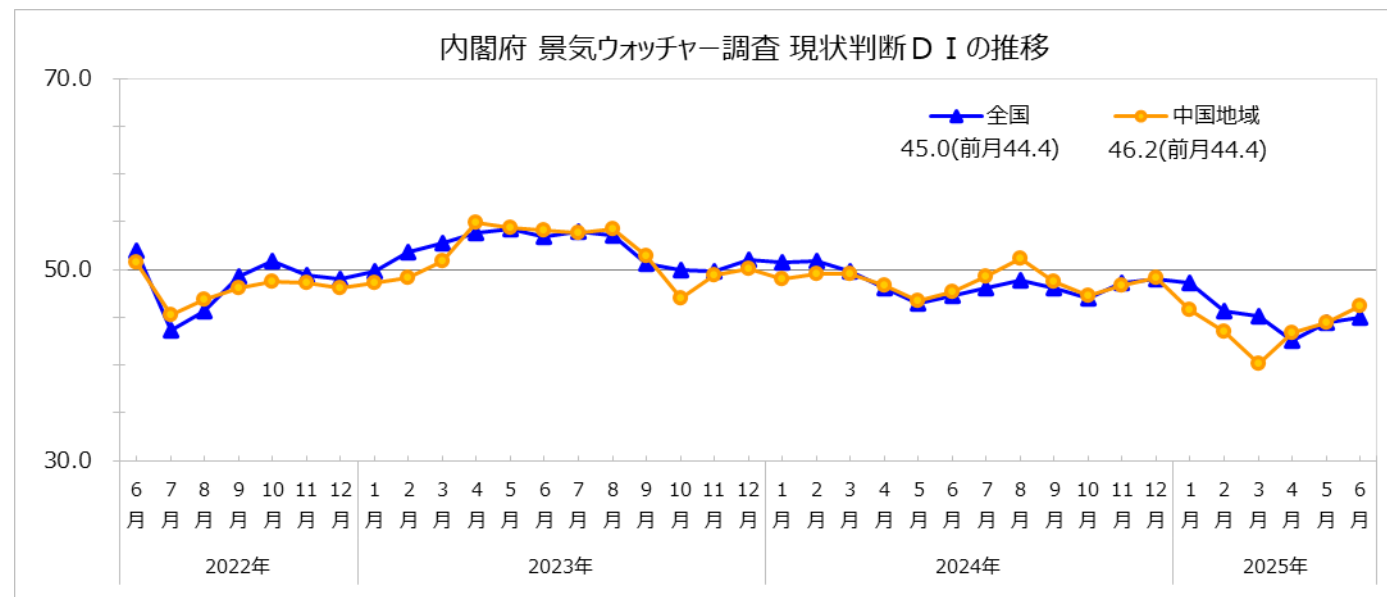
3. 雇用 ～有効求人倍率は前月に比べ低下、新規求人数は前年同月比で減少～

2025年6月の有効求人倍率（季節調整値）は、1.40倍で前月の値を0.04ポイント下回り、2か月連続の低下となった。
また、新規求人数（原数値）は、前年同月比▲3.6%で2か月連続の減少となった。

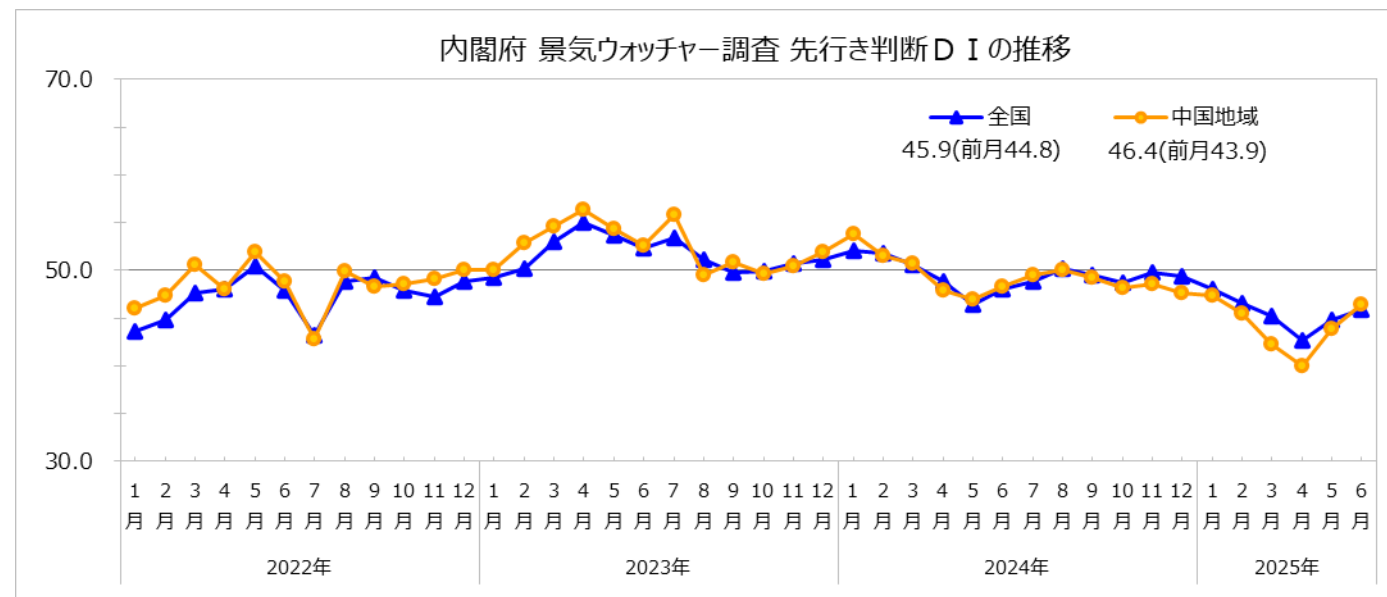


4. 景況感 ～現状、先行きともに前月に比べ上昇～

内閣府の景気ウォッチャー調査（令和7年6月調査結果）によると、中国地域の3か月前と比較しての景気の現状に対する判断D I（方向性）は46.2となり、前月差1.8ポイントの上昇となった。

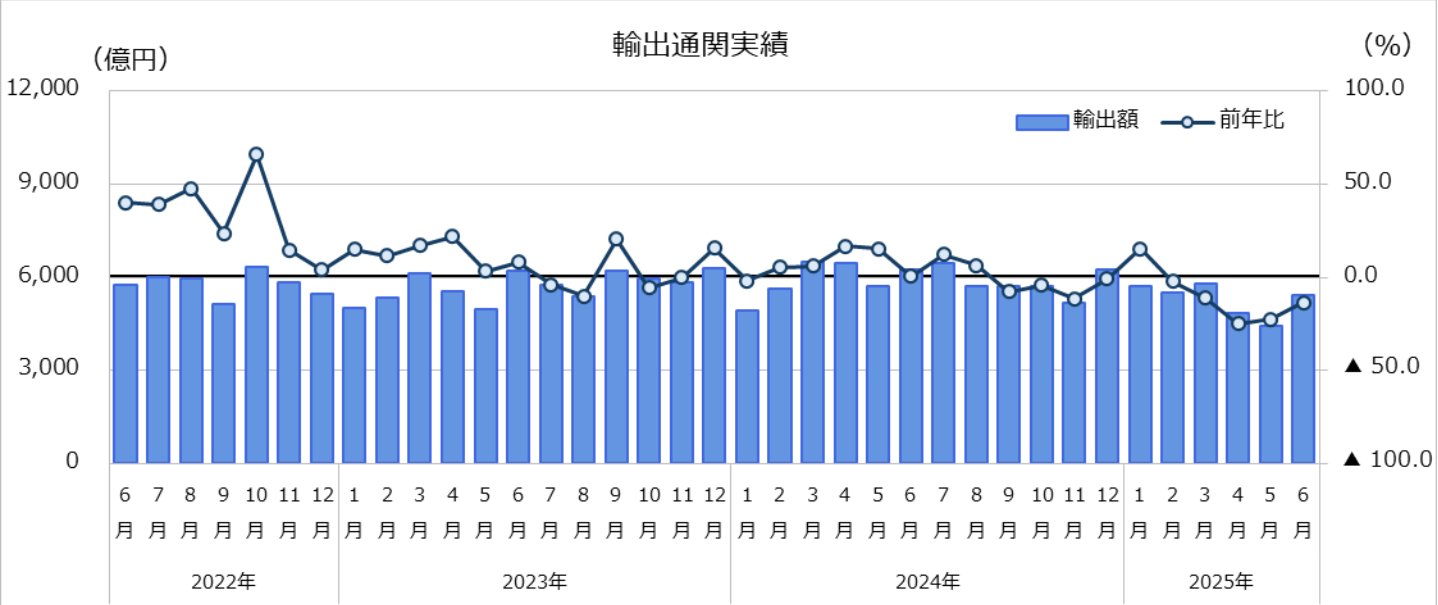


2～3か月先の景気の先行きに対する判断D I は46.4となり、同2.5ポイントの上昇となった。

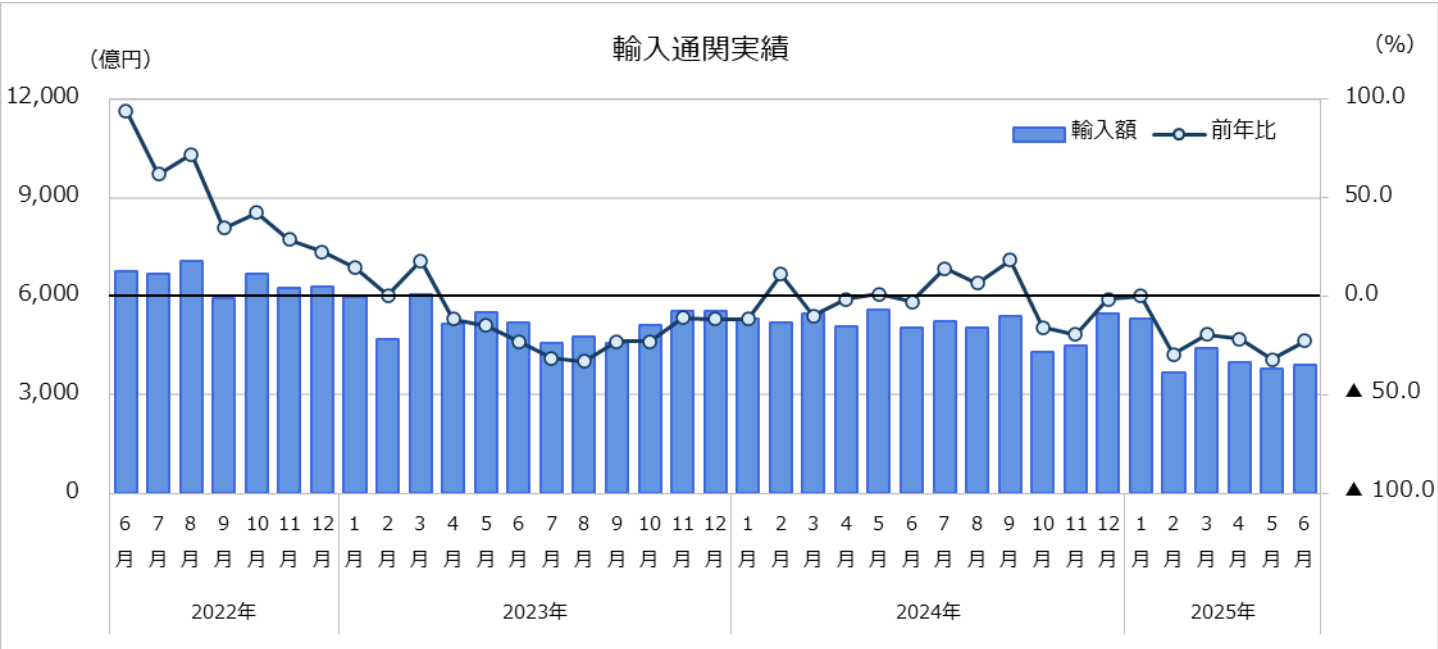


5. 貿易 ～輸出、輸入ともに前年同月比で減少～

2025年6月の輸出は、前年同月比▲13.5%と5か月連続で前年を下回った。品目別では、自動車、石油製品などが前年を下回った。地域別では、北米、アジア向けなどが前年を下回った。



2025年6月の輸入は、前年同月比▲22.5%と5か月連続で前年を下回った。品目別では、金属鉱及びくず、原油及び粗油などが前年を下回った。

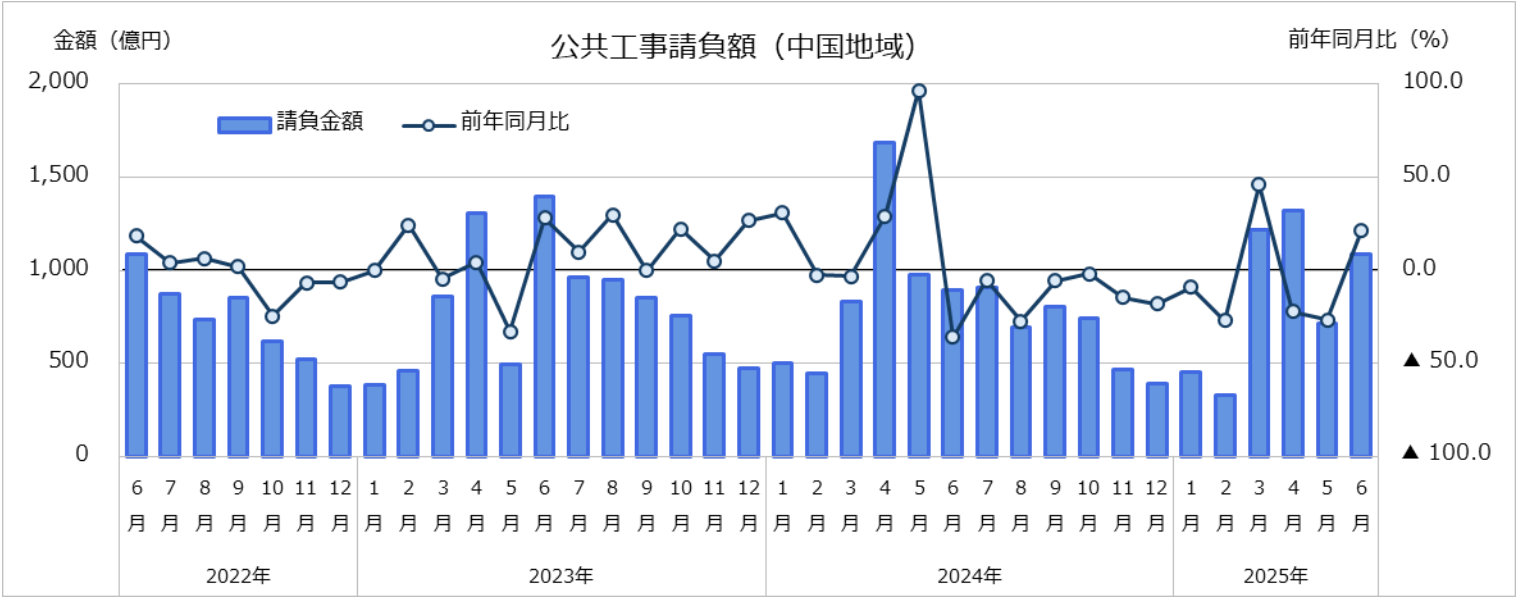


(資料) 「中国圏貿易統計」 (神戸税関)

6. 建設動向 ～公共工事は前年同月比で増加、住宅建設は前年同月比で減少～

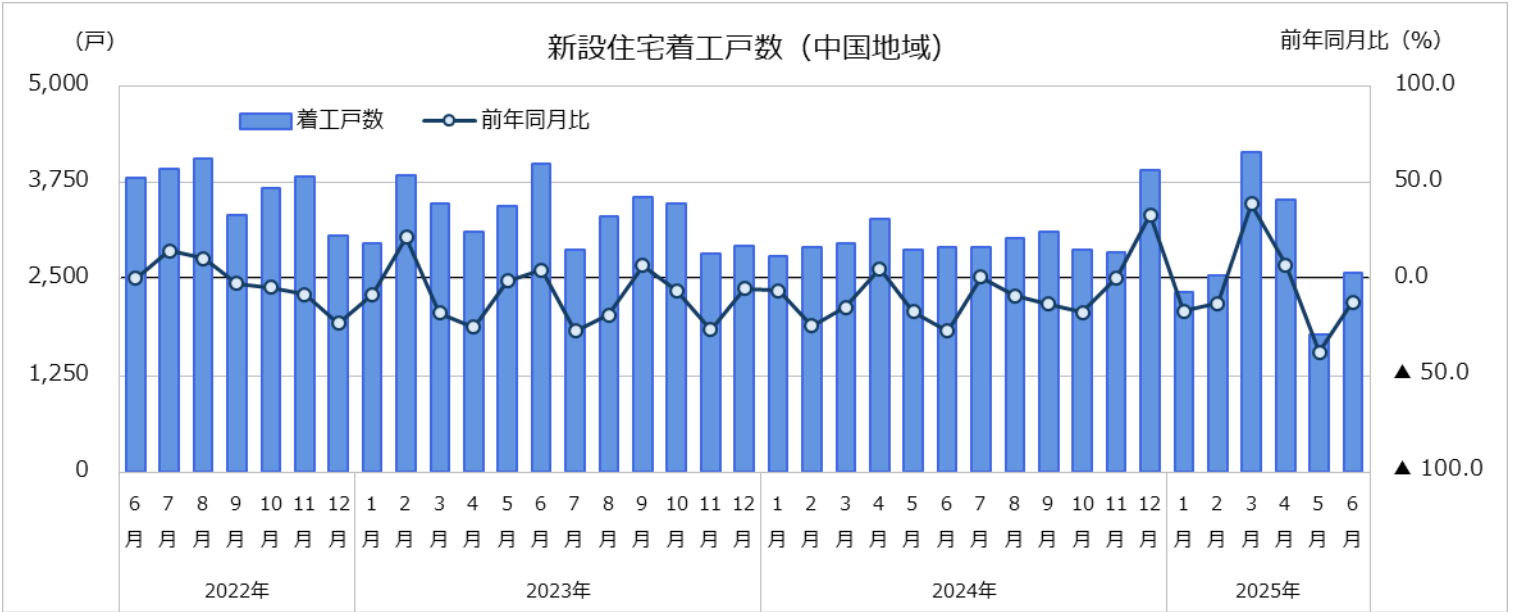
2025年6月の中国地域の公共工事請負金額は、市町村、その他公共的団体で前年を下回ったものの、国、独立行政法人等、県で前年を上回った。合計では前年同月比21.5%と3か月ぶりに前年を上回った。

(資料) 西日本建設業保証(株)広島支店



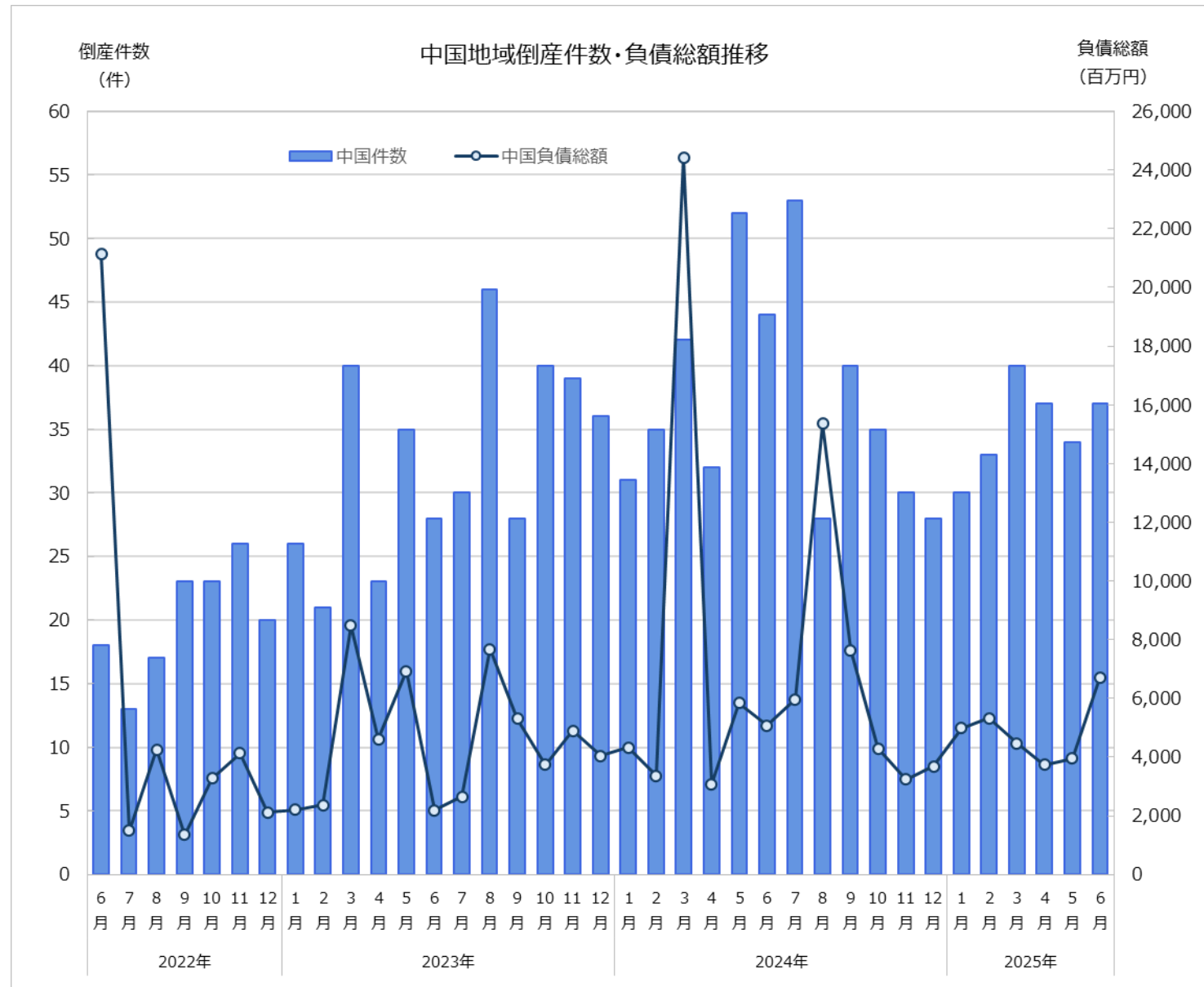
2025年6月の新設住宅着工戸数は、持家、貸家、給与住宅、分譲住宅、すべてで前年を下回った。合計では前年同月比▲11.9%と2か月連続で前年を下回った。

(資料) 「建築着工統計調査」(国土交通省)



7. 企業倒産 ～件数は前年同月比で減少、負債総額は前年同月比で増加～

2025年6月の企業倒産件数は37件で、前年同月比▲15.90%と2か月連続で前年を下回った。
また、負債総額は66億9,500万円で、前年同月比32.15%と増加した。
業種別にみると、建設業が12件、製造業が7件、小売業が6件などとなった。
原因別にみると、販売不振が28件、既往のシワ寄せが4件、放漫経営が3件などとなった。



8. 設備投資 ～2025年度計画は前年度を上回る見込み～

日本銀行広島支店の企業短期経済観測調査結果（2025年6月）によると、2025年度の設備投資計画（含む土地投資額）は、製造業が前年度比24.4%、非製造業が同▲7.4%となり、全産業では同7.8%となっている

（注）横軸に初回調査（3月調査）から実績が確定する翌年6月調査までの6調査回を取り、毎年度の設備投資計画について、調査回毎の前年比の足取り（修正パターン）をグラフで示したもの。

